

2023 年度生態工学会 第 3 回理事会

日時：2024 年 2 月 28 日（水）14:30～15:30

場所：ハイブリッド開催（東京文化会館・zoom）

【総務委員会】

2023 年度総務委員会活動報告（2 月期）

(1) 会員数・賛助会員数について、下記のように報告がなされた。

会員数：2024 年 2 月 27 日現在（カッコ内は 2023 年 10 月 17 日からの増減）

終身会員 1 名（増減なし）

正会員 315 名（増減なし）

学生会員 76 名（増減なし）

合計 392 名（増減なし）

賛助会員数：5 団体 6 口（増減なし）

ダイキン工業株式会社(2 口)、ホテイ産業研究所(1 口)、

宇宙システム開発株式会社（1 口）、クリムゾンインタラクティブ(1 口)

プライムデリカ株式会社（1 口）

(2) 審議事項

下記の事項に関して、候補者がおられたら、事務局にご連絡をいただくこととなった。

- ・令和 6 年度「日本工学会フェロー」の推薦について
- ・「日本農業工学会 CIGR2024 若手支援金」の応募について
- ・第 40 回国際生物学賞受賞候補者の推薦について
- ・コスモス国際賞受賞候補者の推薦について
- ・「日本工学会 令和 6 年度第 1 回会長・フェロー懇談会」について
- ・第 21 回日本学術振興会受賞候補者の推薦について

- ・2024 年度日本農学賞受賞 祝賀会について

⇒2024 年度日本農学賞受賞論文要旨を 1 冊購入することとした。また、祝賀会への参加希望者がおられたら、事務局にご連絡をいただくこととなった。

(3) 報告事項

- ・「2023 年度第 1 回 CPD 協議会公開シンポジウム」に後援を行った。
- ・「日本農業工学会 2023」に候補者として増田篤稔副会長の推薦を行い、受賞が決定した。
- ・「2023 年度 日本農業工学会フェロー」に候補者として宮嶋宏行副会長、土肥哲哉副会長の推薦を行い、フェローの称号が授与された。

以上

【編集委員会】

2023年度編集委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」35巻2号～36巻1号(2023年4月、7月、10月、2024年1月発刊)を発行した(内容:原著論文8、短報1、ニュース・企画・報告0、お知らせ、投稿規程、総ページ数121)。なお、2023年1月18日時点での査読・著者修正中の論文は、原著論文2報、短報0報、総合論文0報であり、受理済み原著論文は2報、短報0報である。

また、36巻1号までをJ-STAGE上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	2023年度「生態工学」掲載論文一覧			
	第35巻			第36巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	1	1	1	5
短報		1		
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

(2) 学会賞の推薦

奨励賞として以下の1件を推薦した。

- ・35巻1号 Nostoc sp. HK-01 の生活環における細胞外物質の紫外線防御と発芽と細胞分化への貢献(英文)
オン 碧、ほか
- ・35巻2号育苗施設におけるワサビ苗の生育におよぼす環境影響評価およびそれに基づく静岡県近郊におけるワサビ生産適地の探索
風岡菜月、ほか
- ・35巻3号 店頭生育維持システムにおける光環境の違いがスイートバジルの香りに及ぼす影響の評価
坂口直己、ほか

論文賞として以下1件を推薦した。

- ・34巻4号 高濃度6価クロム含有メッキ工場廃水の簡易処理方法
掛川寿夫、ほか

(3) 内規の更新

臨時メール会議を行い、編集委員会委員長等が共著に含まれる際の査読プロセスに関して、以下のような取扱いとすることを定めた。

- * 投稿された論文の(共)著者に編集委員長および論文担当が含まれる場合の査読について
 - ・論文(共)著者に分野論文担当が含まれる場合、編集委員長もしくは編集副委員長が論文担当の役割を担う。
 - ・論文(共)著者に編集委員長が含まれる場合、「Referee Checklist」の宛名および論文受理時の「受理通知」の発行者を編集委員長から編集副委員長に変更する。

以上

【企画委員会】

2023年度企画委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合2023年大会（合同開催）

日 時：2023年5月21日（日）～5月26日（金）

会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月21日（日）にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表4件（13:45～15:00）、現地ポスター発表5件（17:15～18:45）を実施した。また、同日にポスターフラッシュトーク（15:00-15:15）、およびオンラインポスター発表（15:30～17:00）を実施した。

(2) 2023年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2023年6月23日（金）～6月25日（日）

会 場：高崎健康福祉大学

参加人数：85名

特記事項：

■ エクスカーション「ファームドウ中里農場」 参加20名

■ 一般セッション口頭発表 13件、ポスターセッション 19件

■ オーガナイズドセッション 2件

「宇宙居住ビジネスの最前線」 宇宙事業推進委員会、CELSS委員会

「日本を元気にするNPOの活動」 NPO法人蔵前バイオエネルギー

■ 特別講演会 「循環型社会の構築と地域資源」

「群馬県農業のグリーン化について」

群馬県農政部技術支援課 グリーン農業推進主監 石井隆志

「営農型太陽光発電事業」

ファームドウホールディングス株式会社 代表取締役社長 岩井雅之

「群馬県のバイオマスの取組と循環型社会の構築」

（一社）日本有機資源協会主幹 土肥哲哉

「陸上養殖産業と循環型社会」

東京海洋大学学術研究院 准教授 遠藤雅人

■ 新田慶治名誉会長追悼講演

「若き日の新田慶治先生」

生態工学会 特別理事 木部勢至朗

「CELSS 研究と生態工学へ」

生態工学会 顧問 多胡靖宏

■ 次世代応援シンポジウム2023 次世代科学社会活性化委員会

「NAGOMI会の活動現状と新たな企画」

(3) 農業環境工学関連学会 2023年合同大会（共催）

日 時：2023年9月4日（月）～9月8日（金）

会 場：筑波大学春日地区、つくば国際会議場（茨城県つくば市）

特記事項：9月6日（水）農業環境工学関連学会2023年合同大会公開シンポジウム-農業環境工学の未来像-（茨城県つくば市）において、船田会長が循環型社会の構築のための生態工学会の使命と貢献について講演されるとともに、他学会代表とのパネルディスカッションに参加した。

(4) 第67回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2023年10月17日（火）～10月20日（金）

会 場：富山国際会議場・ANAクラウンホテル富山（富山県富山市）

オーガナイズドセッション：「宇宙で生きる！ ～宇宙居住と物質循環～」

特記事項：3年ぶりのリモート無、対面のための学会であった。参加者は1600人以上と思われ、昨年よりも300人以上大幅に増加したようである。「宇宙で生きる！」ではECLSSに関する17件の発表があった。Gatewayへ搭載予定のCO2除去装置、微量有害ガス制御装置、圧力制御装置の発表もあり、国内では初めての発表だと思われる。会場からは非常に多くの質問があり、活気のある学会発表であった。企業の展示も多く宇宙開発の大きなうねりを感じる学会であった。

(5) 日本マイクログラビティ応用学会 第35回学術講演会 JSMAC-35

日 時：2023年10月25日（水）～10月27日（金）

会 場：沖縄産業支援センター（一部オンライン開催）

特記事項：10月26日（木）にオーガナイズドセッション「ECLSS・宇宙惑星居住」において、下記の口頭発表を3件実施し、活発な議論が行われた。

「有人宇宙学：宇宙移住のための3つのコアコンセプト」

山敷庸亮、京都大学・SIC 有人宇宙学研究センター代表

「宇宙海洋と宇宙養殖の概念」

遠藤雅人、東京海洋大学

「人工重力と月面・火星での居住施設」

大野琢也、鹿島建設

(6) 定例研究会

第1回定例研究会

日 時：2023年5月31日

タイトル：成層圏微生物から惑星保護へ

演者：電力中央研究所サステナブルシステム研究本部
気象・流体科学研究部門 三木健司 氏

第2回定例研究会

日 時：2023年11月1日

タイトル：ペロブスカイト太陽電池の界面処理技術

演者：産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター
有機系太陽電池研究チーム 古郷敦史 氏

第3回定例研究会

日 時：2024年2月28日

タイトル：ゲノム科学で探る生態系を構成・維持するために必要不可欠な生物・遺伝子

演者：かずさDNA研究所 先端研究開発部
植物ゲノム・遺伝学研究室 白澤健太 氏

以上

【表彰委員会】

2023 年度表彰委員会活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

2024 年度生態工学会学会賞受賞候補者の選考結果について

(1) 受賞候補者の募集

募集期間：2023 年 4 月 1 日～11 月 30 日（学会誌，学会ホームページ）

募集結果：推薦 4 名（論文賞 1 名， 奨励賞 3 名）

(2) 表彰委員による選考

下記のように決定した。

論文賞：掛川 寿夫 氏

「高濃度 6 価クロム含有メッキ工場排水の簡易的処理方法」(34 巻 4 号)

奨励賞：オン 碧 氏

「Contribution of extracellular substances to cell protective abilities against UV radiation and differentiation of germination, vegetative cells and hormogonia, during their life cycle in Nostoc sp. HK-01 (Nostoc sp. HK-01 の生活環における細胞外物質の紫外線防御と発芽と細胞分化への貢献)」(35 巻 1 号)

奨励賞：風岡 菜月 氏

「育苗施設におけるワサビ苗の生育におよぼす環境影響評価およびそれに基づく静岡県近郊におけるワサビ生産適地の探索」(35 巻 2 号)

奨励賞：坂口 直己氏

「店頭生育維持システムにおける光環境の違いがスイートバジルの香りに及ぼす影響の評価」(35 巻 3 号)

以上

【広報委員会】

2023 年度広報委員会活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

(1) SEE QUICK（メール配信）の運営

SEE QUICK 配信依頼に対する取り扱い方法を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2023 年 4 月 1 日から 2024 年 2 月 9 日までに 74 回（2250 より 2323 号）の情報提供を行った。円滑な SEE QUICK の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) HP の内容の更新

2024 年次大会(愛媛大学 2024 年 6 月 29・30 日)および関西支部シンポジウム(2024 年 3 月 7 日)等の開催案内を学会 HP に掲載した。また、その他のコンテンツについても適宜 HP の更新作業を行った。

以上

【国際委員会】

2023 年度国際委員会活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

特記事項無し。

以上

【産学連携委員会】

2023年度産学連携委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

【「食は未来の健康への投資」シンポジウム開催】

産学連携委員会と関西支部の主催で食と健康をテーマとしたシンポジウムを下記のとおりオンラインで開催予定です。

- ・日時：2024年3月7日(木) 14:00～16:00
- ・場所：オンライン(zoom)開催
- ・受講対象：生態工学会会員・同賛助会員企業ほか関係学会・機関、ご関心のあ
る皆様

- ・主催：生態工学会 産学連携委員会、関西支部
- ・内容：

- ・話題提供、講演（14:05～15:20）

- ・「美味しさの感性評価」 住化分析センター大阪ラボラトリー 副所長

松岡康子氏

- ・「植物工場野菜の成分、香り」 大阪公立大学大学院農学研究科

准教授 山口 夕氏

- ・「食健幸プロジェクト」 神戸大学医学部附属病院栄養管理部部長／糖尿

病・内分泌内科

特命講師

高橋路子氏

- ・パネルディスカッション(15:25～15:55)

- ・ファシリテーター 生態工学会 関西支部長 伊能利郎

- ・パネラー 上記講演者+ダイキンプライドシステムズ食品エンジニア

佐藤道男氏

【コメント】

- ・日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムは本年度の開催はされなかったが、次年度は開催を目指したい。
- ・新しく企画した食と健康をテーマとしたシンポジウムには多方面からの参加が見込める模様であり、開催結果によっては今後の活動テーマとして継続していくことを検討したい。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2023 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告（2 月期）

例年通り、男女共同参画学協会連絡会運営委員として活動している。引き続き連絡会運営委員として活動を続ける。次世代応援に関する活動として、全世代が語り合い知り合う場としての、NAGOMin を継続している。現在、生態工学会 HP にコラム等の掲載など、引き続き検討中である。本委員会からの提案で、新たに「リコチャレ応援団体」として内閣府男女局のページに学会情報と女性研究者からの応援メッセージを掲載していくので、広く女性会員からの応援メッセージを募って生きたい。

参照サイト：<https://www.gender.go.jp/c-challenge/kyouryoku/gakujutsu.html>

内閣府提出様式：

（リコチャレ）応援団体メッセージ入力フォーム

（リコチャレ）先輩からのメッセージ入力フォーム

提出期限：とくになし。内閣府へは委員会からまとめて提出。

【CELSS 委員会】

2023 年度 CELSS 委員会活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

(1) 横浜未来機構 YOYO(ヨコゾ) YOKOHAMA 宇宙 DAYS トークセッション

日 時：2024 年 2 月 3 日（土）11:30-12:50

会 場：横浜ランドマークプラザ、サカタのタネガーデンスクエア

[A-02] 【講演会】宇宙生命～宇宙における地球生態系と生命の維持～

特記事項：横浜未来機構（YOYO）では、横浜に「宇宙をテーマとしたムーブメント」を巻き起こしていくべく、宇宙プロジェクトを立ち上げた。YOYO Festival では京都大学 SIC 有人宇宙学研究センター長の山敷先生の新刊「有人宇宙学：宇宙移住のための3つのコアコンセプト」を題材に、生態工学会より ECLSS の説明のため桜井も参加した。山敷先生のシンセサイザーによる大会テーマの演奏、弟さんのベース演奏、+ダンサーによる演目でオープニングが始まった

[A-04] 【パネル・ディスカッション】月・火星に「地球」を持っていける？

本セッションでは、将来の月面・火星での人類の暮らしについて考える。火星は寒く、温暖化を起こす必要がある。地球では温室効果ガスである CO₂ によって環境変遷が起ころうとしている。これらを両方解決する方法はないだろうか？また、地球生命が月・火星に住むためにはどんな仕組みが必要でだろうか？みなさんと一緒に考えてゆきましょう！

村木 風海氏：一般社団法人 炭素回収技術研究機構（CRRA）代表理事・機構長

黒田 有彩氏：株式会社アンタレス代表取締役、宇宙タレント

山敷 庸亮氏：京都大学 SIC 有人宇宙学研究センター長

桜井 誠人氏：JAXA 研究開発部門研究領域主幹、生態工学会理事

大野 琢也氏：鹿島建設株式会社 イノベーション推進室 担当部長

稲谷 芳文氏：JAXA 名誉教授、一般社団法人「宇宙旅客輸送推進協議会」代表理事

ムーンビレッジアソシエーション理事

(2) 7th Global MVA (Moon Village Association) Workshop & Symposium 2023 Kurashiki/Tottori

Day 4 (December 10)10:10 - 12:00 Core-biome session Part 1

Chairs: Masato Sakurai (JAXA) & Yosuke A Yamashiki (Kyoto Univ)

o Masato Endo (Tokyo Univ of Marine Science & Technology) Aquaculture in Space

- (3) 『月周回有人拠点 Gateway (ゲートウェイ) での科学利用に係る検討状況の共有とアンケートへのご協力のお願い』 (アンケート期日: 2024年3月31日まで)

<https://humans-in-space.jaxa.jp/news/detail/003547.html>

月周回有人拠点 Gateway (ゲートウェイ) の利用に関する取り組み状況、今後の利用機会等について、国内のコミュニティ・関係者への情報発信を強化し、関心の拡大、理解増進を図ることを目的に、Web ページでの情報公開を行います。合わせて、国内のコミュニティを対象としたアンケートを実施することで、ポテンシャルユーザや利用のアイデア・意向を確認し、今後の国際公募等における情報展開の参考とすることを目的とします。

○Web ページ: <https://humans-in-space.jaxa.jp/news/detail/003547.html>

【See Quick No.2315 配信済み】

- (4) 宇宙技術戦略に関する考え方【内閣府】【情報共有】

<https://www8.cao.go.jp/space/committee/02-jissyuu/jissyuu-dai27/sankosiryuu1.pdf>

④ 地球低軌道・国際宇宙探査

地球低軌道及び深宇宙において有人による宇宙活動を行うためには、活動の場となる拠点とそこへのアクセスと活動を支える技術として、物資補給技術、有人宇宙滞在・拠点システム技術や宇宙環境利用・宇宙実験技術、回収・往還技術等が重要である。物資補給技術 (自動ドッキング技術、航法誘導制御技術、補給効率向上技術、燃料補給技術) について、我が国においては、国際宇宙ステーション (ISS) への物資補給を担う宇宙ステーション補給機 (HTV) や新型宇宙ステーション補給機 (HTV-X) の開発により、優位性の高い技術を獲得してきており、これらを活用、発展させることが効率的かつ効果的である。

2040年に3兆円規模の経済効果があるとされている地球低軌道上サービスは、宇宙開発利用市場の獲得や低軌道以遠の宇宙開発に向けた拠点等としても極めて重要な役割を担っており、中国、ロシア、インドでも独自拠点を確保しようとする動きがある。我が国として、地球低軌道における様々な利用ユーザの取込みと成果最大化を図るため、有人拠点構築技術や拠点基盤インフラ技術、**生命維持・環境制御技術**、さらに、有人活動支援技術 (遠隔化・自動化・自律化技術、健康管理技術、有人宇宙施設運用技術、有人活動安全評価・管理技術) 等の有人宇宙滞在・拠点システム技術を開発することが重要である。

- (5) 宇宙戦略基金の創設【情報共有】

https://www.meti.go.jp/shingikai/kempatsushin/uchu_koku/pdf/019_s06_00.pdf

民間企業・大学等による複数年度にわたる宇宙分野の先端技術開発や技術実証、商業化を支援するため、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) に10年間の「宇宙戦略基金」を設置し、そのために必要な関連法案を早期に国会に提出する。本基金について、まずは当面の事業開始に必要な経費を措置しつつ、速やかに、**総額1兆円規模**の支援を行うことを目指す。

- (6) 令和5年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム「月の縦孔での滞在開始用ベースキャンプの最小形態と展開着床機構の開発」のテーマに関して ECLSS を担当している。「宇宙を目指す建設革新会議」のプロセス WG の副長としてシナリオ作成も検討している。(桜井)

- (7) 学会HP内での「CELSS研究を一覧できる紹介ページ」の作成を検討している。学会HPへのリンクをするべく「CELSS研究を一覧できる紹介ページ」の作成を外部サイトで進めている。

以上

【宇宙事業推進担当委員会】

2023年度宇宙事業推進担当委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

《活動報告》

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報をSEE Quickで配信した。（第8回：2024/1/10）
- (2) CELSS委員会と協力し、2024/6/29-30に開催が予定されている2024年次大会でのオーガナイズドセッションの企画検討を行った。

《活動計画》

- (1) 今後の活動計画
 - ① 生命維持、宇宙居住に関するニュース、イベント情報、助成金・補助金情報等の情報収集を行い、SEE Quickで数ヶ月に1回程度定期的に配信する。
 - ② CELSS委員会と協力し、2024年次大会においても宇宙居住関連のOSの企画を進める。
 - ③ NPO法人日本火星協会等と協力して、月・火星居住をメインテーマとしたシンポジウムを検討・企画する。
 - ③ 今後の活動の参考とするため、宇宙関連の他学会の事業推進委員会の活動内容を調査する。

以上

【循環型社会構築委員会】

2023年度循環型社会構築委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

《活動報告》

2023年12月12日 キックオフミーティングを行い、委員会趣旨等に関するオンラインミーティングを実施した。参加者6名

《活動計画》

- ・2024年次大会でのオーガナイズドセッションの企画
- ・オーガナイズドセッションの参加に向けた準備
テーマ、講演者等についてオンライン会議の開催予定。

以上

【各支部活動】

2023 年度各支部活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

【北海道・東北支部】

特記事項なし。

【関東支部】

(1) 活動報告

すみませんが、具体的な活動ができておりません。

(2) 活動予定

2024 年度に対して、活動計画を検討するように進める予定です。

【関西支部】

2023 年度活動報告

【日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウム開催】（関西支部）

- ・本年度は日本農業気象近畿支部の一般発表会の発表件数が多く見込まれたため、生態工学会との共催シンポジウムは実施せず。

【「食は未来の健康への投資」シンポジウム開催】

産学連携委員会と関西支部の主催で食と健康をテーマとしたシンポジウムを下記のとおりオンラインで開催予定です。

- ・日時：2024 年 3 月 7 日(木) 14:00～16:00
- ・場所：オンライン(zoom)開催
- ・受講対象：生態工学会会員・同賛助会員企業ほか関係学会・機関、ご関心のある皆様
- ・主催：生態工学会 産学連携委員会、関西支部
- ・内容：
 - ・話題提供、講演（14:05～15:20）
 - ・「美味しさの感性評価」
住化分析センター大阪ラボラトリー 副所長 松岡康子氏
 - ・「植物工場野菜の成分、香り」
大阪公立大学大学院農学研究科 准教授 山口 夕氏
 - ・「食健幸プロジェクト」
神戸大学医学部附属病院栄養管理部部長／糖尿病・内分泌内科
特命講師 高橋路子氏
 - ・パネルディスカッション(15:25～15:55)
 - ・ファシリテーター 生態工学会 関西支部長 伊能利郎
 - ・パネラー
上記講演者+ダイキンアプライドシステムズ食品エンジG 佐藤道男氏

【コメント】

- ・日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムは本年度の開催はされなかったが、次年度は開催を目指したい。
- ・新しく企画した食と健康をテーマとしたシンポジウムには多方面からの参加が見込める模様であり、開催結果によっては今後の活動テーマとして継続していくことを検討したい。

【四国支部】

(1) 2023 年度活動報告

2023 年 6 月 10 日（土）開催の日本生物環境工学会の四国支部講演会に共催した。

日本生物環境工学会四国支部講演会（共催：生態工学会，農業情報学会施設生産システム部会）

6 月 10 日（土）13：30-15：00

1) 「植物生産における緑色光照射技術（仮）」

株式会社四国総合研究所 工藤りか氏

(2) 2024 年度活動計画

2024 生態工学会年次大会を愛媛大学農学部にて 2024 年 6 月 29，30 日に開催されるが、サポートを行う。

日本生物環境工学会四国支部講演会を共催する。

【九州・沖縄支部】

(1) 活動報告

- ・日本農業気象学会九州支部の後援（鹿児島大学農学部，2023 年 12 月）
- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

(2) 事業計画

- ・他学会（近隣分野）九州支部との共同企画の検討（後援など）
- ・継続的な会員募集

以上

【2024 生態工学会 年次大会】

2024 生態工学会年次大会(愛媛大会) 準備状況

下記の報告がなされた。

(1) 大会組織 (敬称略)

大会委員長：仁科弘重 (愛媛大)

実行委員長：羽藤堅治 (愛媛大)

実行委員：遠藤雅人 (海洋大)、小林 修 (愛媛大)、高山弘太郎 (愛媛大・豊技大)、田村治美 (ICU)、土肥哲哉 (JORA)、中根昌克 (日大)、鍋嶋絵里 (愛媛大)、藤内直道 (愛媛大)、細井文樹 (東大)、増田篤稔 (玉川大)、寺添 斉 (電中研、事務局)

(2) 開催概要

【日 程】 6月29日(土)、30日(日)

6月28日(金)	6月29日(土)	6月30日(日)
PM エクスカーション(予定)	AM 一般口頭発表セッション PM 総会 表彰式・受賞者講演 特別講演会 懇親会	AM 一般口頭発表セッション ショートプレゼンテーション PM ポスターセッション 表彰式・閉会式

【会 場】 愛媛大学樽味キャンパス農学部大講義室

〒790-8566 愛媛県松山市樽味 3-5-7

アクセス

松山空港から松山駅まではリムジンバスで15分(松山市駅までは25分)

JR 予讃線松山駅

- 伊予鉄バス：2番乗場から[8番線]東野経由道後温泉駅前行きで、「愛大農学部前」バス停下車、約24分
- タクシー：松山駅から約15分(約4km)

伊予鉄道松山市駅

- 伊予鉄バス：20番乗場から[8番線]東野経由道後温泉駅前行きで、「愛大農学部前」バス停下車、約15分

【特別講演会】 現地実行委員メンバーにて検討中

【懇親会】 6月29日(土) 会場 農学部会館(ケータリングで対応)
→市内開催も検討

【オーガナイズドセッション】：募集中

【エクスカーション(予定)】

6月28日(金)午後 愛媛大学植物工場研究センター 現地集合・解散

【ホームページ】 公開済み

【昼 食】 両日とも学内食堂は営業していない。

大学周辺(10分程度)の食堂、レストラン、コンビニを利用

(3) 主要な締め切り一覧

内 容	期 日
オーガナイズドセッション企画案提出	2024年4月26日
一般発表セッション申込み	2024年5月13日
発表論文提出	2024年6月3日
事前参加費振込み	2024年6月21日

以上